

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2008 年 2 月

IEC/TC89 (耐火性試験) ル・マン会議

IEC/TC89 の国際会議が 2007 年 10 月 16 日～19 日まで、フランスのル・マンで開催された。参加国は米国、英国、ドイツ、フランス等 13 か国で、今年はロシアから初めての参加もあり、総勢 31 名の参加があった。日本からは、IEC/TC89 国内委員会の吉田委員長((独)海上技術安全研究所)、深谷委員((社)電線総合技術センター)、香月委員((独)製品評価技術基盤機構)及び乾(帝人化成(株))の 4 名が参加した。

TC89 の会議が開かれたル・マンは、パリから 190 km 南西にあり、TGV でちょうど 1 時間かかった。会議は WG12(着火と燃焼の広がり)、WG11(燃焼生成物)、WG10(ガイダンス)、議長諮問会議(CAG)及び TC89 全体会議の順で進められた。各 WG のトピックスをプラスチックに関係のあるテーマを中心に以下に述べる。

1. WG10 会議(ガイダンス)

(1)IEC/CD(委員会原案) 60695-1-30(プリセクション)

材料や部品の耐火性を試験して予備選択(プリセクション)し、製品での耐火性試験を省略することを目的としたもので、CDV(投票用委員会原案)に合意が得られ、全会一致で FDIS(最終国際規格案)に進むことが決まった。

2. WG11 会議(燃焼生成物)

(1)IEC/CD 60695-8-1(発熱一般指針)、8-2(試験方法)、8-3(絶縁油の試験方法)

第 1 版(JIS C 60695-8-1 が一致規格)が改訂され、HRR(Heat Release Rate)や FIGRA(Fire Growth Rate)などの評価法が詳細に規定される。8-1 は CDV へのコメントが解決し、FDIS に進む。8-2 は TR(技術報告書原案)の発行待ち、8-3 は TS(技術仕様書原案)の発行待ち。

3. WG12 会議(着火と燃焼の広がり)

(1)IEC 60695-1-20(着火性に関するガイダンス)

各種の着火についての原理を解説したもの。近日中に発行される。

(2)IEC 60695-1-21(着火性試験の概要と適用)

各種着火性の解説とその適用について解説したもの。近日中に発行される。

(3)IEC/CD 60695-2-10(グローワイヤ試験—装置及び共通試験方法)

プロジェクト・チームで、グローワイヤ温度選択のためのフローチャートを作成した。来年春の会議まで引き続き審議し、CD 文書を用意する。

(4)IEC/CD 60695-2-11(最終製品のグローワイヤ燃焼性試験方法)

スモールパーツの定義を外し、用語集及びガイダンス文書(IEC 60695-1 シリーズ)に導入するという意見が出ている。1st CD を 2008 年 1 月末までに準備する。

(5)IEC/CD 60695-2-12(材料のグローワイヤ燃焼性試験方法)

試験片の厚さを評価が必要な厚さにする(最大と最小厚さの測定では、目的の厚さの正確な値が得られな

いため)。製品からの切出し試験片を使用する旨の規定は削除された。2nd CD を 2008 年 1 月末までに準備する。

(6) IEC/CD 60695-2-13 (材料のグローワイヤ着火性試験方法)

グローイングは考慮すべきではないとの日本のコメントが了承された。2nd CD を 2008 年 1 月末までに準備する。

(7) IEC TS 60695-11-11 (火炎からの熱流束による着火性試験) : 本規格は日本提案。

炎に直接接触しないで熱輻射による着火性を試験する方法。2008 年 1 月末まで DTS 投票に出し、ラウンドロビンテストは TS 発行後に行うことになった。

(8) IEC 60695-11-20 (500W 試験炎による燃焼試験)

現在、UL94-5V タスクグループで進めているスケジュールに従って検討を行った後、2008 年 5 月の WG12 会議に提案があるので、2008 年にレビューを開始する。

4. その他

議長が製作中の、TC89 に関するウェブサイト(<http://www.ceiweb.it/tc89/home.html>)の紹介があった。次回の会議は 2008 年 5 月 13 日～16 日に、ドイツのフランクフルトで開催される予定である。

報告: 日本プラスチック工業連盟
電気安全・規格委員会派遣
乾 泰夫(帝人化成(株))